

真書 「自己革命」



はじめに

想像と理念、法則と仮説、この区別を理解することの出来ない人間は惨めである。

時代を問わず最も偉大な発見は、和多志達の心の深部に存在している「潜在意識」の力に気付いた事です。この発見は、原子力の発見や月面着陸などとは比較にならないほど重要な事です。日々の生活の中で埋もれてゆく可能性を再構築し、潜在意識の存在の再理解を深めて頂きたい。この思いがこの書を書かせた真実の理由です。

一人一人に内存する崇高な「真実の自己」の存在を認識し、その力と「親しむ事」が重要な事です。自分という唯一無二なる存在に対して真摯に語りかけ、次の三つの質問に明確に応答出来る自分づくりを行うべきです。

第一の質問、「自分の内に存在する知性が創造意思」であり、その創造意思が宇宙における唯一の実在であり、全ての根源であるという事を本当に信じているだろうか。本当に信じているならば環境や境遇、出来事、あるいは他の人を責めるような事はしない筈である。

第二の質問、自分の経験や出来事、又境遇をもたらした原因が、自分の外部の力にあると信じていないだろうか。もしそうならば何故、和多志達は周りを変えようとしているのか。

第三の質問、和多志達は本当に現象の世界は結果であって、原因ではないと信じているのか。もしそう信じているならば、あなたは外面的事物について愚痴ったり、こぼしたり、不平を言ったりする事は決してせず、あなたの思考と感情を潜在意識と宇宙の法則に調和させ、それによってあなたの世界を変えようとする筈である。

あなたの心的な信念こそが唯一の原因なのです。あなたが心の中で思い、感じ、考え、信じ、真実として受け入れたものが、あなたの世界における唯一の原因なのです。「あなたの信じることにしたがって、あなたになされる」という事を心に留めていただきたい。

■その人の欲求を実現させるために、必要な事が必ずその人に示される

潜在意識の法則には強制力があります。人の潜在的な信念、又は確信はその人の全ての意識的な行動や言動を支配し管理しているのです。あなたのやるべき事は全て、あなたの信念にしたがって「自動的」になされてゆくのです。和多志達は自分の自由意志で全てを行っていると思いがちですが、和多志達の行動は全て潜在意識によって制御、管理されている事実を認めざるを得ないのです。潜在意識は和多志達に内蔵されているわけですから、全体観から捉えれば、「真の自由」とも言えるでしょう。つまり、和多志達は自分が受け入れるアイデアや欲求や思念の選択において自由な意思を発揮出来る事になるのです。和多志達が精神的に強い実在感をもって、あるアイデアを受け入れるなら、それは和多志達一人一人の世界に表出してゆくのです。

現在起こっている事実は、一人一人の潜在意識に入力された「信念」という感情付帯された「価値」に基づいて現象化されています。何を真実だと認識したかが大きな要素となる事を知っておいて下さい。

幸福とは、大いなる富や無限の可能性を信じる自分に内蔵する、潜在意識の反射物なのです。その潜在意識の根源は、宇宙創造意思エネルギーである事を根幹から信じる者に対して、誰人も傷つける事は出来ない。この事実を探求すれば、幸福（空間中の進化させるエネルギー）があなたの為に働いてくれるのです。そのためにも量子論を探求することは不可欠なのです。宇宙そのものは、摂理性を有し、摂理を具現化する為に、原理を空間内に同化させ法則を現実に対応させた。法則はある一定の条件の下で成立する規律なのです。この条件とは、概念という「前提」という事にもなり、哲学の基本でもある「前提が矛盾のない真であるならば、導き出される結論も又真なり」という事に繋がるのです。

和多志達が人間の心理を探求する上で最も重要な事は、「宇宙空間における法則を知る」という事です、こ

それが哲学でいうところの「前提」になるのです。

この章では、この宇宙空間の法則性を解説していききたいと思います。「宇宙空間の法則性を知る」事が「自分を知る」に連動してゆく事を意識しておいて頂きたいのです。ではここで、「宇宙」という概念(定義)を明確にさせていきたい。分かっているようで、意外に分かっていないのが、この「宇宙」という考え方なのです。

現代宇宙論のはらむ多くのパラドックスも、この基本点を明確にしているところから起こっていたのです。中国の淮南子によれば「四方上下これを(宇)といい、古住今来これを(宙)という」、つまり「宇」が空間、「宙」が時間と訳される。このように宇宙とは「全体を占める空間」と仏教で言うところの「無情」(時間)を総称したものである事が分かります。もっと端的にいえば、宇宙とは「現世」(この世)そのものを指すと言ってよいと思われます。しかし、現代宇宙論はこの定義から完全に外れていると考えられます。二十世紀における代表的な宇宙論は、一般によく知られている「ビッグバンセオリー」である事に異議は無いと思われます。

ビッグバン(Big Bang)を直訳すれば「大爆発」ですが、新聞などで記載された事は一〇〇〜一五〇億年前に宇宙の卵のような超物質の塊(?)が突然として大爆発を起こして、空間とともに膨張しながら現在の宇宙が誕生したと言っています。ただし、永久に膨張し続けるか、ある時点から縮小に転ずるのかは分からないとされていますが、科学者や天文学者は勿論、和多志達もよく考える必要があります。宇宙(空間それ自体)が大爆発して誕生し、現在も膨張しているという直接的証拠など、どこにも存在しないからです。

「ビッグバンセオリー」は日本では「宇宙膨張論」「火の球宇宙」と訳されますが、当初から「宇宙の年齢」という巨大なパラドックスをは孕んでいたのです。現在の膨張定数(銀河の後退速度)から逆算した宇宙の年齢が、宇宙最古の星の年齢よりも若いという異常の事態になってしまったのです。

海中の魚が、海よりも早く生まれるわけがないのです。その矛盾を解決する為数学的に考案された「インフレイ

「ビッグバン宇宙」と称するものが、近年まで「ビッグバン宇宙」の主流を占めていたのですが、今は非常に怪しくなってきたのです。本来、宇宙とは全体を占める空間（真空）を意味し、「誕生した」とは時間推移を表現する言葉なのです。ビッグバン宇宙論とは「宇宙全体を占める空間（真空）」と時間の中から、空間と時間そのものである宇宙が誕生した」と実に矛盾極まりない事を言っているのです。

一つの可能性として、はるか昔に宇宙（空間）に含まれている全物質が一個の卵のようになっていたという「宇宙内の物質爆発・飛散論」ならまだしも理解出来ませんが、しかし、宇宙そのものである「真空」の中から宇宙が生まれたとか、宇宙そのものである「空間」（真空）が爆発して誕生し、現在も風船のように膨らんでいる、と言われても誰も分からない。膨張とは空間に対して物質が容積を拡大していく事であるのです。空間（宇宙）が、いったい何に対して膨らんでいると言うのでしょうか？ いささか矛盾に満ちた言説が露骨にさらけ出されている科学理論と言わざるをえません。

二十世紀最大の深層心理学者といわれたスイスのC・G・ユングは、早くからビッグバン宇宙論の間違いを見通していました。「西洋人の神話への希求は、始めと終わりという目標を持った進化的宇宙論を必要とした。西洋人は静的な事実の永遠の繰り返しという概念を受け入れる事が出来ないと同時に、始めと終わりのない宇宙論に反発したので。抽象的に言えば、西洋人の自我は（切断）する力が強く、何かにつけて明確に区分し、分類してゆくのに対して、東洋人の自我は出来るだけ（切断）しないで（包含）する事に耐える強さを持っていると言える」と語っています。

宇宙と「この世」は同意語である事を理解する為に先に進めたい。「この世」とは和多志達が認識している世界の事であり、時間軸上の世界なのです。「時間軸上である」という事そのものが物質化されている状態である為、あくまでも本質的データの投影でしかないのです（virtual reality）。

この書を通じ、自己の実相に気付いて頂きたいと思うのです。

# 目次

はじめに 3

## 第一章 意識が現実を創る 15

意識が現実を創る 16

素粒子は人間の意識を事前に察知する 26

人間の意識が過去を変える 31

超光速情報伝達の存在を証明した量子力学 34

「波束の収縮」「この世」のミステリーを集約した！ 35

あの世では、(ミクロ)テレパシー(超光速現象)は当たり前！ 39

「この世の」の物質はスケスケの隙間だらけ！ 41

量子力学的「霊界」「あの世」 43

スウェデンボルグが伝える「霊界構造」 46

## 第二章 量子力学の反乱 科学の自然解釈のパラダイムシフト 51

量子力学を集約した「麻雀」 52

自然は飛躍する！ 54

量子力学は「この世」の裏側に二重レベルの超空間層を検知した！ 58

量子 (quantum クォンタム) の発見！ 60

確率が実在を決定する！ 61

「量子力学の父」ボーア登場！ 63